제114호 1909. 5. 21.

（明治四十一年十二月三日第三種郵便物認可）（日刊）日曜及祭日の翌日休刊　明治四十二年五月廿一日（金曜日）　第百十四號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

寄書

自殺に就いて（下）

牧雲子

余も雲水時代加州金澤本多男爵邸に在つて一老宿に參せし時曾て一則の因縁に於いて何と云つても首はれざるのみならず嘲笑惡罵到らざるなかりしに因り余は憤りの餘り死を以て誓ひ大に刻苦し舉れ投身すべき屈竟の場所迄撰び置きしが其効奏しから忽然として氣が付き「ア、命拾ひをしたり」と歡喜の餘り口を衝いて云ひたる事がありき思ふに死を居して掛かる程畏るべく強き者は又とあるまじ其當時余は思ひぬ生死を脱得せんとて、苦辛を嘗めつゝある際なれば此儘に死するは犬死なり、然りア、犬死なり、死せし積りにて努むるならば、如何なる時と處にても耐へ得らるべし、死せずして濟まば倫理にも契ふ是程の幸福はなからん、之れ蓋し多少の修養を積み居りし結果にてはあるまじきか、余は新聞紙の三面記事を見る毎に精神病者の如何に多きかを思ひて未だ曾て長大息せざるを得ざるなり、去る十二日仁川民團長宮田耕司氏の變事、新聞紙上に現はるゝや余は大に驚き其誤報ならん事を祈りしに口惜しくもそは全く事實にてありき、余は去月十九日仁川理事官の邸に於て一場の法話をなし折理事官の紹介にて參列の富田民長に面會せり氏は年長けて如何にも人格の高き人たるを見受けしが、所用ありて講後直ちに歸宅せられたれば親しく語を交ゆるを得ざりき、新聞の所報に依れば氏は立派なる學識を具へ且つ閲歴もありて、而かも清廉の聞え高き人たりし由なるが故に變事を聞きて一層異樣の感に打たれたり。如何なる事情の伏在するにもせよ、掛替へのなき貴重の生命を無下に捨てんとせられたるは、韓國經濟に於て多事なる今日余は氏の如き有用の人物を喪ふを深く惜みて止まざるなり噫千還の一失とも云ふべきか書に曰く『惟れ聖も念ふとなければ狂と作り、惟れ狂も克く念へば聖を作る』と聖も人なり、狂（凡夫）も亦人なり、念ふの一字工夫の文字にして修養すべき處なり利衰毀譽稱譏苦樂の八風に漂よはされ喜怒哀懼愛惡欲の七情交も相攻めて未だ始より窮りあらざれば卒に自己本有の光明を沒する事なきにしもあらず是に於て余は學問なる者は修養に資する効力の多大如何を疑ふと同時に益々理屈のみにて終始し難きことを斷定し得るなり、故に余は一縦韓國に在留せらるゝ識者に勸むるに抜山の力と蓋世の氣とを修養されんことを以てせんとす、大人は已に決定して居れども中人以下は動き易し、動き易きが故に修養と云ふことが最も緊急なる事ならんと思ふ再び言ふ『允に其中を執れ』と　感時花濺涙、惜別鳥驚心。

文苑

●大酒家●　勿禁

「ソクた酒を召し上つては毒です」と家内は五月蠅く僕に忠告をするが、併し僕に取つては頓と酒の害を認めないから、相不變酒と親しんで居る、之が豪傑ぶつて徒らに酒を飲むとか又は自棄糞で飲むといふのなら惡いが燗嘉好きなのだから致し方がない而も兩親とも大酒家で斗酒尙辭せずといふ有樣なのだから其の倅が好きなのは當り前だ薄暮家に歸つて膳の前に坐り、手酌で一杯差し、茶漬茶碗の糸尻から盃を持ち上げる時の氣持といつたら何ともいへない

●新發明の獨樂●●●　酒川

「新發明の獨樂、新發明の獨樂」と傘のやうなもので獨樂の眞中の穴を押して獨樂を回はして見せ「一つ十錢とは易いものだ」と自畫自贊しながら泥濘に露店を出して居る爺さんがある、年の頃は六十の坂を越したであらう、貧に窶れて居るさまは憊るからに痛々しい獨樂は要らなくとも爺さんが可愛相さうだといふので鶴志家は買つてやる、併し此の爺さん餘程頑固だ、客に對して少しも世辭がない、損な爺さんだ、

●父の自慢●●●　百代

甲「家のお父うさんは村長だゾ……」乙「家のお父うさんも豪いぞ……」二人の小兒は互に父の自慢をし合つて居る所へ魚屋の倅が通り掛つた、甲は突如に「鈴木……鈴木……」と呼び留めた、呼び留められた魚屋の倅は「ナニか」といつて振り向いた「お前のお父さんは魚屋だらう、賤しい商賣だナ」倅は非常に怒つた、ソシて翌日學校の教師に訴へた、教師は顔を顰め「宜いではないか……」

佐倉宗吾

（八十五）　眞龍齋貞水講演

いま幼い兄弟が二人、眼を覺して夢物語をしてゐるのを、母親のお美禰が聞付け　美「オウ／＼お前、さう云ふ夢を見たのかへ　弟「御母さん、御父さんが御歸りになつて、御土産いたゞいた夢を見ました　美「アヽ然うかへ、御父つさんは程なく御歸りになりますから、柔順しくして御居……アヽもう眼が覺めたのを幸ひ、小便をするが宜い……コレ宗平、喜六を小便に伴れて往つてやつてくれ　兄「サア喜六、兄いさんが御小便に伴れて往つてやるから御起き　弟「然うかへ、それぢや小便をして來やう」父が居ないと思ふから、母親の云ふ事を能う聽き分けて弟の喜六を起し、是から厠へ小便をしに往く、此容子を戸の外に立止つて聞く宗吾の胸の中　兄「ア、危いよ……サア小便をしたらねんねをおし　弟「小便をしたら寒く成つて來た、兄イさん寢て温暖まらうね　美「サア／＼三之助、恰度よいから小便をやりませう……サア小便をするんですよ」是から田舎の事だから、雨戸を開けて行る　美「オウ／＼大變な雪、こりや大分積りました、寒い筈だ……サア小便をするんだよ」泣きまする所の三之助を、今小便をさせる女房お美禰の聲の中「アヽ此雪に、良人宗吾殿は何處に御泊りして在れいでか、さぞ御寒いことであらう、御寒さを身に御引受けなさるやうな、嘸か御丈夫にして御居なさる所が、御分は頭から御弱い旦那殿」雨が降り、雪が降るにつけ、逢ふ良人の身の上を案じやるは夫婦の情、戸の外に立聞きましたる宗吾は、大丈夫宅番の無い事を見澄ましましたから　宗「お美禰、お美禰ッ」ハッと思つたのは宗吾の女房お美禰、女ながらも確乎した心　美「ハテ不思議……宗平や　兄「御母様、何事でございます　美「今妾を呼ぶ者があるが、不思議ぢやないか何うも御父さんの聲のやうであつたが、斯りや妾が日頃から、御父さんのことを案じて居るから、狐狸の類が誑すのぢやないかね、能く耳を澄して聽いてゐてくれ、獣物と謂ふものは、續けて八度呼ぶことは出來ないと云ふから　宗「お美禰や、お美禰　美「ハイ　宗「決して案ずるな、狸でもない、宗吾である」と頭から「ウッカリ雪を冠つた良人の姿　美「オウッ、旦那殿でございましたか、宜うマア……何うして御戻り遊ばしました」と、遽々然し迎ひをまする時に、惣領の宗平が　兄「御父様、御歸り遊ばせ、父が歸つたと思へば、母の何分の手助けをしやうと、子供が皆な心配して、直ぐに戸を押開ける其内に宗吾は家に入る、手も凍れて、草鞋の紐も解くことが能はぬ、其時宗平が　兄「御父樣、御草鞋の紐を解きませう」久々にて戻りて父の姿を見て喜ばしくも土間に飛降り、草鞋の紐を解く　宗「アヽ漸うの事にて、聊か寒さを凌ぐことが出來た　美「御寒くございませうから、兎に角焚火を致しませう」と是から焚火を致します、萬一戸外へ焚火が漏れては成らぬと思ひますから、襖を能く立切り、それへ屏風を廻して、戸外に焚火が漏れないやうに致します　美「今夜は誠に御寒うございますから、手製りの濁醪でも暖めて差上げませう　宗「アヽそれは又結構な事である」すると右の方から宗平、左の方から喜六が　兄「御父樣、さぞ御寒くございましたらう　宗「ア、其方達もよく柔順くして居りました、御父様が歸つて參りました　弟「御父樣、なつかしくございます」と縋ります、もう何日までも家に歸つて居りますものと思ひますに依つて子供の喜びは一方ならぬ、宗吾は其喜ぶ顔を見るにつけ、猶更可哀さうで堪りませぬ、其内に妻は、良人が久々にて寒さを冒して、歸つて來たと思ひますから、卵など其處へ取出しまして、濁醪を徐う温め、卵を破つて其中へ入れ　美「サア良人、之を一献召ります　宗「アヽ、それは／＼結構なものだ然らば頂きませう」

廣告

（二）（日刊）（月曜及祭日の翌日休刊）明治四十二年五月廿一日　京城新報　（金曜日）　第百十四號

京城新報

韓國女子教育

人世女子となる勿れ百年の苦樂他人に依るとは支那詩人が東洋婦人の境遇を敍ひたるの詩也。女子の深窓に蟄居して世事に關せざるを好しとするは東洋の通弊也。我日本の如きは維新以來女子教育に意を注ぎ大に此弊を打破したり。韓國に於ては尙依然として此弊風を存じ、女子は深窓に幽居して世事を辨せず、事物を識らざるを誇となし唯々閨房の玩弄物たるに甘ず。是を以て夫たるものが何事をなすとも、如何なる不倫の行動をなすとも、更に之を知ることなく從て夫に對して何等の勸告することなく殆ど不關焉たり。斯る狀態なれば婦人の家庭に於ける感化力は毫も認むる能はず。

韓國に於ては古來より女子に對する教育なるものなしと云ふも可也、若しありとすれば諺文を教へて小説的の傳說を讀ましむるか、幼稚なる繪畫を習はしむるか、單順なる樂器を弄ばしむるに止るのみ。此等の女子が人の妻となる、其家庭に何等の感化を及ぼさゞるは當然也。一生を擧げて男子の玩弄に委するも亦止むを得ざる也。斯の如くして家庭に於ける女王の感化力なき爲に男子の亂行を制する能はず。見よ韓人中流以上の男子にして公然數人の妾を蓄へざるものなし、而して渠等が數多の畜妾は乃ち經費の多大を意味す、資力充分ならざるも數人の妾を蓄へざれば兩班大官の名譽ならずとなせり、其結果は仕の出處なき爲に賄賂を貪り、或は不法の利權運動をなす、陰謀も政權爭奪に熱狂するも、詮じ來れば手を懷ろにし身を勞せずして不義の富を得んとするもの也、斯くして不義の富を貪らんとする果實數多の妾を蓄へて淫樂に耽るが爲也。罪惡の背後には必ず婦人ありとは眞に言ひ得て適切と云ふべし。

統監政治實施以來買官や賄賂や陰謀は表面其影を沒したりと雖も此弊風の存する限りは何等かの形を變て害毒を流さゞれば止まざらむ、之を矯正するには强き社會的制裁に依らざる可らざるも、妻女たるものゝ人格を高むるを必要とす、之れ女子教育に待たざる可らず。

韓國の女子教育は重に耶蘇宣教師の手によりて爲されつゝあり、宣教師の目的は布教の方便ならんが其效績は決して沒す可らず舊教も新教も多大の費用を抛て女子教育に力を盡せり、新教派の如きは夙に京城に李花學堂、平壤に女子學院、近頃釜山にも女學校を設置し、最近開城にも新設して頻に中等教育を授けんとす。女子教育は女子を生意氣にするの批難あるも、此等教育を受けたる女子は必ずや從來の婦人と異りて家庭に大なる感化を及ぼすべし、保護政治の下にある學部は女子教育に重きを置かざるか、社會の改良は先づ家庭よりせざる可らず、是れ永遠の策にして韓人發の積弊を掃ふる最も必要也。余輩は學部が女子教育に着手するの必要あるを認むるもの也。

東京電報

▲副統監謁見

曾禰副統監は本日參內天皇陛下に謁見仰付けられたり

▲統監確定說

曾禰副統監の昇任は略ぼ確定せる由なるが何れ明日の閣議に於て決定するべく而して決定せし曉は一兩日の中に親任式を擧ぐべし（二十日發）

外報一束

●波斯形勢改善　波斯の形勢は改善しつゝあり波斯王は政治を一に新內閣に委するの意あるが如しと

●罷工の不成功　布哇雇主は日本人の同盟罷工を破らんとして布哇土人、葡萄牙人、支那人六百を耕地に入れたり罷工せるものは五千に過ぎず邦人の形勢不可にて不穩の行動に出んとすと

●郵便罷業下火　佛國政府は迅速に郵便罷業を鎭靜しつゝあり五百四十八名は既に免職せられたるが多數の郵便局員は之等の免職者を舊職に復したしと懇願中なり但總勞働聯合團より資金を受けたる煽動家等は郵便局員等を自己の革命的目的に利用せんと盡力し居れり

●英國增稅反對　英國ロスチャイルド、ベヤリング、エヴベリー、フェリクス、シュスター、ゴッシエン等を始め銀行商業家合計三十五箇は聯署を以て書を首相アスクイス氏に送り豫算案の小資產社會に益々不釣合の大負擔を負はしめ結果重大なる旨を擧げて豫算案に反對せり

●新戰艦の完成　ドレッドノート改良型たる英國新戰鬪艦テメレイアー號は愈々完成を告げ去る十五日デヴンポートに於て乘組員の任命を見たりと

●黑龍鐵道施設　從來の黑龍鐵道施設案は調査不完全なるため豫算と相一致せざりしが今回交通大臣ルウフロフ氏の決斷により根本的改善を見んとすと

雜報

●第二期暴徒掃討費　本年度豫備金中より第二期暴徒掃討費として三萬二千五百七十五圓同郵便物警送費として二萬三千七百十五圓を支出する由內閣會議を經て決定したりといふ

●國庫金取扱高　本年一月一日より五月十日迄の間に於て通信官署が取扱ひたる韓國々庫金の總高は歲入二百九十九萬二千六百七十五圓十八錢九厘として引拂總高九十萬二千八百〇八圓四十五錢二厘なりと云ふ

●外務部長廢官　近日統監府官制改革の結果外務部長を廢官することゝなる由なるが之が外交事務は外務課に於て執掌し奏任主任擔當すべしと云ふ

●趙農相ご東籍田　趙農相は農商工部の管理となりたる東籍田視察の爲め十九日午後一時半中村農務局長と國仲同地に到り作物樹木等を視察したり

●魚潭休職ごなる　侍從武官魚潭は此度休職を命ぜられ軍部軍務局軍法課長申羽均其後任に補せられ武官學校教官權泰翰は申羽均の後を襲ひたりと

●瓦斯會社の交渉　日韓瓦斯會社道路使用に關する日韓瓦斯會社と民團理事者との交渉中なることは既記の如くなるが結局圓滿に解決すべき見込なりと電通は報せり

●通用延期ご發表　既報の如く舊白銅貨の納稅使用期限を本年末月迄延期さる件は閣議を經て統監の承認申請中なりしが一兩日中の官報にて發表さるべし

●觀光團の園遊會　日本觀光團員主催となり二十三日奬忠壇に於て日韓官民實業家及新聞記者通信員を招待して園遊會を開くべしといふ

●赤十字社員ご振天府　同社總會參列者の內佩有功章社員及本部職員中相當の資格ある者の爲め今回同社に於て特に振天府拜觀の儀目下出願中なりと

●鐵鑛の輸出額　農商工部所管に鐵山にて採掘したる鐵鑛にして本年一月より五月十七日迄枝光製鐵所に送りたる總高は一万〇五百六十五噸なり

●道書記官官舍決定　昨紙所報の如く本年度に於て新築すべき道書記官々舍四ヶ所は略左の如く決定せりと　忠北清州、全南公州、江原春川、咸北鏡城

●大內氏の報告演說　代議士大內暢三氏は數日前同地劇場に於て演說なしたるが近便にて群山に赴き報告演說を爲すべしと

●財務官旅費規程　韓國財務官以下財務署員の日額旅費規程は度支部會計第十五號を以て一昨日の官報にて發表されたるが該規程に依れば韓人財務官は宿泊料二圓五十錢邦人財務官は四圓韓人主事は一圓五十錢邦人主事は二圓五十錢なりと

●書記官會議ご各部　今回道書記官會議の開會を機とし度支部農商工部學部等にても各書記官を招き所管事務に關する打合せを爲す筈なりと云ふ

●召見ご通牒依賴　別項記載の如く太皇帝は今二十一日觀光團員一同を召見すべきに就き承寧府總管趙民熙氏は漢城府民會長兪吉濬氏に京城在住者及滯在中の同團員に之が通牒方を依賴せり

●李容九歸韓期　一進會長李容九氏は東京に於て胃腸病に罹りたるに依り院治療中なりし由なるが此程病勢殆んど全癒したるを以て二十日東京出發歸韓の途に就くべしと

●獨國事務官の入京　在横濱獨國總領事館付事務官ヨーナス氏は農工商業視察の爲め韓國に渡來したるが昨日水原農事模範場を視察し本日新義州安東縣を巡視して日本へ歸る筈なりと

●太皇帝ご觀光團　太皇帝は今二十一日午后一時閔泳韶、金宗漢、李容植其他日本觀光團員九十四名を德壽宮に召見して無事觀光を了して歸韓したるを慰し兼ねて日本觀光中に於ける各自の感想を聽取する筈なりと

●社寺の取扱方　社寺（殿陵廟社を含む）の取扱方に就きては昨年勅令第五十號を以て發布されたるが其解釋に就て各自意見を異にする處もあるに依り目下內部は度支部、臨時財產整理局と凝議中なりと云ふ

●法官詮衡委員任命　十八日付を以て法部次官倉富勇三郎氏は法官詮衡委員長に法部刑事局長洛金憲同民事

漫畫募集

▲應募心得▼

一、畫題は時事問題に關する諷刺

二、畫面は四寸五分ご二寸二分五厘
　但竪横自由の事

三、當選者へは本紙一個月分を進呈す

四十二年五月

京城新報社

●財務署管轄區域　度支部大臣は始興財務署を永登浦財務署と改稱し又從來礪山財務署の管轄區域礪山郡を全州財務署の管內に又咸悅財務署の管轄區域龍安郡を礪山財務署の管轄區域に變更したりと

●露國宗教家の退京　露國僧正バーウエル及イヨアンの兩氏並に同國教務院宗教監督ウオルストルゴフ氏は從者一名と共に今二十一日午前八時十分出發平壤、新義州を經て安東縣に一泊、翌日同地發奉天、長春等を經て哈爾賓を視察の上歸國すべしと云ふ

●稅率改正ご地方民　韓國の稅率は古來より葉錢通用地と舊白銅貨の通用地に於て異なりしを以て其の筋にては昨年之れを改正し稅率の低き方に引き下げたるが地方の惡奸は政府の處置を自己の運動に基く結果として愚民より金錢を取立てんとするものありと

●東拓配當金の分配　東拓會社の本季期利益配當は廿二日の總會に於て決定し成るべく早く分配の手續を爲す由なるが其配當率は株金拂込の翌月即ち本年一年より起算し三月迄の三ヶ月分を配當する由にて拂込金十二圓五十錢の六步なりと電通は報せり

●中央銀行問題（電通所報）

韓國中央銀行問題は目賀田顧問在任時代よりの懸案にして一時は現今の如く第一銀行をして中央銀行の事務を取扱はしめ我に於ける日本銀行と同じく千分の十二半の課稅を爲すべしとの說ありしも今日に在りては斷然中央銀行を新設すべしとの說既に確定議となり是に關する條例案等も起草を終へ荒井次官は是非とも解決を告げしめたしとの決心にて先般來上京夫々交渉中なるが何分當面の關係者たる澁澤男が日糖事件にて大に繁忙を極め居るを以て其爲め荒井次官も歸任を延期し未だ決定に至らざる次第なるが中央銀行特設に就き第一銀行との間に當然起り來るべき問題は第一、同銀行の有せる國庫金取扱、紙幣發行の特權に對する賠償第二、一銀行より政府への貸越金七八百萬圓あるを以て其始末を付ける事第三、一銀の有せる特權の爲め韓國總支店のみにて得る所の利益は年額七十萬圓を下らず然るに今之を奪ひ去られ單純なる銀行業をのみ營むものとする時は韓國に在る各支店は到底維持すべからざるを以て是が處分法を講ずる事等なるが荒井次官は總て是等の難問を解決し中央銀行設置の議を確定したる上にて歸任すべしといふ

●中原の鹿何人の手に落ちしや

龍山逐鹿界の狀況は昨紙報道せる如くなるが昨日午後二時の締切り際迄に於ける形勢は依然大村、藤野の兩氏優勢なるも管理局の竹內事務官海津囑託の勢力も又却々に侮るべからず次で松本、川本の二氏は斷末魔に至り俄然頽勢を挽回せしを以て敵をして大に寒心せしむるものありたるが要するに混戰亂戰の姿なりしが終に別項の如き結果を見るを得たりき

●龍山の選擧決定

昨日二時迄に於ける龍山民團議員補缺選擧は別項記載の如くなるが締切間際に至り同地よりの通信に依れば開票の結果豫想の如く左の四氏當選したり

大村百藏　藤野秀吉
海津三雄　竹內菊太郞

●富田民長ご餞別　仁川信夫理事官及び議員外有力者二十六名は一昨日午後四時より仁川俱樂部に會合し富田民長の歸國餞別及び功勞頌表等に就き協議を重ねたりしが結局議員其の他有力者發起となり市民より醵金して金員を贈呈することに決し午後六時散會したりと

●東拓會社の總會（電通所報）　東洋拓殖會社總會は愈々廿二日午後一時より東京商業會議所樓上に於て開會せらるゝが當日宇佐川總裁は會社成立後の事業報告を爲し次で財產目錄貸借對照表、損益計算書を出席株主に配布し今季利益金分配に關する協議を爲すべしと尙韓國よりの出席者は度支部書記官河內山樂三氏宮內殿院卿にて其他當地よりの出席者は極めて少しと云ふ

●六萬圓の損害要求　去る明治三十九年夏洪州城附近に於て暴徒の首魁閔宗植の爲めに殺害されたる山口縣人藤村豐助の遺族英亮は過日閔首魁を相手取り殺害に依つて生じたる損害金として六萬圓と見積り京城地方裁判所に損害賠償の訴訟を提起したる由にて裁判所は過般來原告被告人を審問したる由何れ今月中には言渡あるべしと

●江景ご區裁判所　法部は本年度に於て新に內部樞要の地數十ヶ所に區裁判所を增設することゝなりたるは既報の如くなるが其結果本年中に江景にも公州地方裁判所に屬する區裁判所の新設を見るに至るべしと

●漢城病院の日收　漢城病院昨今の日收は內科外來十一圓內外、外科十八圓內外、眼科六圓內外、耳科四圓內外、婦人科三圓內外、婦人科入院七圓內外なりと

●衞生組合の組織　衞生組合の組織に就き今二十一日午後五時より龍山軍用地に於て發起人會合の上熟議すべしと

●平壤勞働會の鬪着　平壤勞働會は既記の如く京城勞働會平壤支部及び平壤勞働會の合併したるものなるが其の實同會內には東湖、木造、新水口、釜山組及び登負の五團体に分れ利害兎角に一致せず而して今回右の一團体なる東湖は人夫の勞銀低廉なりとて一錢値上げの必要を唱ひ會長之を容れざりしとて茲に鬪着を起し始めたり

●大同門市場の牛皮　平壤大同門市場に於ける牛皮相場は前月中豫想以上の高値にて二十七圓臺に上り其の反動にて其後暴落し低落せしも近來稍や持直し昨今は二十五圓五十錢より二十六圓までの間を上下し內地へ向けボツ〱輸出さるゝ由

●出入船舶ご在港船　一昨日の仁川入港船は信濃川丸、矢崎丸、土曜丸の三隻にして出港船は賴朝丸の一隻なり其の上陸者は男百十三名女九名乘船者男六名而して當日の在港船は揚武、マリアリクマース號、光濟、矢崎、土曜、吉林、櫻井、三省、天草、成歡、仁江、錦江等なり

●江原の淸國人戶口　同地在留淸國人の戶口調査は左の如し
明治三十九年二月（二十六戶、九十五人）
明治四十年一月（二十七戶、百〇六人）
明治四十一年二月（二十九戶、人口百十一人）
明治四十二年三月（戶數三十二戶、百二十八人）

●平壤小學校の增築　平壤民團立小學校は年々學童の數を增加し其の校舍は目下のところ敢て狹隘を感ずる程にはあらざるも今に於て增築し置かざれば近き將來に於て狹隘を感ずるに至らんこと必然なれば當局者に於ては本年十一月頃迄には其の增築工事を起すことならんと云ふ

●高橋博士の北京行　高橋博士は過般來入京浦尾旅館に投宿中の處今二十日平壤、新義州を經て北京へ向へり

●坂出技師の兼任　度支部建築所技師の同氏は臨時財源調査局技師兼任を命ぜらる

●矯風禁酒演說會　本日午後八時より旭町二丁目の名古屋旅館に於て矯風禁酒演說會を開く由なるが佐伯平四郎渡邊四郎兩氏の演說ありと

近事片々

▲近來　英國に於ては亞細亞壓服論なるものゝ起れりと果して是事實ならば大に考物也

▲日英　同盟は英國に於ては頗る冷淡になれりと恐らくは是宇內の平和なる爲ならん

▲露國　には主戰論旺盛也と是れスラブ大同盟の盛に唱へらるゝ所以と左もあるべし

▲英獨　の關係は一面反感に掩はれ居るが如きも一面に於ては一致しつゝありとは異乎

▲寺內　陸相が統監後任者たらんの說事實らしく報せらる四圍の事情或は異ならん乎

▲曾禰　と云ひ寺內と云ひ何れも朦朧に過ぎざらむ時日は最后の斷案を下だし來らむ

▲若し　夫れ寺內陸相が統監たらば武斷家の勝利也と云ふ者あるも片々は之を信せず

▲統監　政治の現狀は顧問時代よりも或意味に於て退步せりと祖國にて評判取りゝ也

▲統監　政治に對して久しく沈默したる國民も今や啞然として其失敗を鳴らし來る

▲伊東　巳代次曰く老爺（伊公）の辭任も聊か時遲だが尙續任するに際るとは適切の辭

▲亦曰　く今の韓國には曾禰杯が妙だろふと嘯く韓國の現狀は斯へ切らぬとの事にや

▲統監　政治に抱負あるものも今日の場合は手が付けられぬと是れ元老干渉の意味乎

▲晨亭　子亦統監に色氣あり進で其衝に當り盤根錯節の勇氣なき乎遠吠は何等效なし

▲山本　權兵衛君大浦君を巡査と綽名し小松原文相を小學校長と綽名す頗る適綽名也

▲故兒　玉大將平田男を目して村長となす平田內相は僅に村長的の風あり是亦適評也

▲曾禰　子韓京出發の際德壽宮に趨伺せしも嚴妃には御不例にて御目に懸らざりしぞ

▲容態　を御尋ね申せしに懷姙の模樣也と眞に芽出度し韓皇室の御繁榮祝ぎまつるべし

▲太皇　帝にも嚴妃にも御老体益々御健勝に在らせらる韓民の喜び左こそと察せらる

▲六月　一日より道書記官の會議ありと望む所は能く其意見を盡さしめて有效にせよ

▲書記　官と觀察使とを別々に召集し同一事項を繰返して問ふが如きは甚だ愚ならん

▲近頃　南鮮連中にて强盗や窃盗を地方にでなし何知らぬ顏する奴ありと嚴懲を要す

▲社會　組織の變遷と共に兩班に斯る不埒の奴は尙起るべし是れ社會問題の一ならむ

●大邱請願委員報告

●警備電話架設內定

●天賜園の開園式

新町見物(一)

椋助

附り、繁榮策を講せよ

俺アー此中内地から渡つたものだが京城チュウ處は太した繁昌だ思つたより人も澤山居るし、店も奇麗で、女も澤山居る、其上人通りの多い事チューータラ素破らしい者だ、昨日本町の見物に出掛け正直〳〵と左りを通つて巡査に右だと怒鳴られて、ナール程て〻等が日本と習慣の違ふ處だナト右の方へ替はらふさしたら折柄威勢能く人力車が宙を飛んでやつて來たコリャ大變だと休を外す間もあらばこそ車の梶棒に一張羅の羽織を引掛けてベリ〳〵〳〵、悔んでも彼の祭りコリャ噂に串譯が無い事仕てのけた一先つ宿へ歸つて女中さんに縫つて貰つて其儘引込んで居ると日は早や西に傾いた、豫て知り合の李兵衛どんが訪ねて來た李兵衛どんは三年前に來て少々金も作つて居るとのこと、夕飯を一所に喰つてザアー是れから新町の遊廓を見物と出掛けた、本通りは見つともないチューので大和町筋の裏通りを取つて行く、月はないが是が澤山あるので物の綾目はよう判かる、肌をスガ〳〵と通す風は心地がよいダン〳〵進んで堀切りを貫けると驚いたりな眞晝も同じ有樣だ、是れが誠の不夜城と云ふものであらふ、俺れが鄕とは違つて電氣が一パイ燈いて居る、第一番に覗いたのは山遊樓だがアマリ別嬪も居ない俺の噂程の奴ア居ないと云ふと、李兵衛がクス〳〵笑ふ、次は京城樓だこゝには一寸成つて居るのが見へる、其次は第一樓の支店だウロ〳〵覗いて居ると中からアベコベ素見される、オヤ〳〵と李兵衛が逃げ出す、次は第一樓本店だ氣が利いて居やがらアー妓夫が居るぞ中はドウダ中々ハイカラが居るぞナンダ梅香だウム二葉と丸で春ばかりだナー、判かつて居らア春を賣るのさ、酒落た口利くなと李兵衛に叱られて清月に行くこゝにも大分並んで居る曲つた處は若春樓向ふは松葉、南山、大樹、ズット下つて入口が井門だドレモ〳〵構へは立派で見た處は隨分繁昌らしい、處がそうでないテ此頃毎晩登樓る客の數が六十や七十揚るれ金が四百や五百だ塔る者が百四五十人の女郎で十軒に割當ても一軒十四五人の平均だないか、それに平均四十圓や五十圓の金を揚げたのでナンボ立つものか、ナニ其れに税金が高い、そうだらふ、玉代が高いから當前だ、此儘で押通して行たら其れこそ大變だ樓主はボツボツ逃出すよ、すると女郎の置去りが出來るせ、戯談じやナーよ、なんのかんの李兵衛と二人で饒舌りながら戻つて來た、サア宿へ歸つて虹の樣な氣焔を吐いたのが椋助(新町繁榮策だがそは明日)(つゞく)

夥多しき梅毒患者

▲鼻が惜くば注意せよ

去る十六日南部署が淫賣婦の大檢擧を爲し其結果十九名を檢擧し何れも拘留處分附したる事は當時の本紙に報導せしが昨日は丁度其滿期に相當せしかば同署にては警察醫をして檢黴せしめたるに十九名中健康者は僅かに七名にして他の十二名は悉く梅毒に冒され居たるが第二期梅毒に罹り居る通院治療を要するものは下林うめ、中石こと、谷口きくね、須崎てる、木村たか、田浦ゆき、曾川ひさ、上田はなの八名又同じく第二期梅毒に罹り居るものにして直接傳染の虞あるを以て入院治療を命じたるは湯淺たまよ、藤本まさこ、山田こと、芝田ひさの四名なりしとはなんと恐ろしき話ならずや鼻の惜しき人は大に注意すべき事共なり

小夜嵐(密賣淫の大檢擧)

魚遊痴史

小氣味夜嵐夢破ぶられて　何んとせんかた泣ッ面
客に迫られ主にや強制て　夜着無爲たのが此始末
主に忠よりや政府に不忠　わたしの身体は二忠半
コラッと一聲呼起されて　見れば恐ろしまくら元
怪しい情にしつぽり濡て　ぐッすり寢耳に水の音
スッテン天罰裸体で恥を　かくれ座敷の濡れの幕
飛で逃出トタンの屋根で　足が辷つて轉ろげ落ち
止せば四日の拘留うけて　後悔臍をば抱かへ主婦
官廳で許さぬ密事が露て　憂目三ッ日の檻倉の中
何せ一度は落べきはなを　野暮な風めが吹き散す

遊客は退韓受令者

▲惡漢でも妻子は可愛い

仁川遊廓敷島樓に去る十六日三人連れの男登樓し一奴、松子、駒勇の三妓を揚げ大散財をなしたる後イザ勘定となるや例の無一文にて銀側時計、金鎖等入質して金五圓を借り勘定の內入れをなしたる模樣が如何にも怪しきより刑事が探偵したる所其の中の一人は本月二日京城にて退韓命令を受けたる埼玉縣北足立郡六辻村平民中田定雄(三十)と云ふに類似せる點ありしかば其の翌朝歸樓の途中にて取押ゑ本署に引致し一方京城に紹介すると共に嚴重に取調べたる所右は全く中田にして退韓處分を受けたる後

七歲の少女を出齒る

▲出齒龜は五十二歲の爺

原籍高知縣加美郡堀之村十二番地當時京釜線金泉在住の石工大山竹七(五十)は本月十四日大工三人と共に韓人酒幕で飮酒し午後四時迄に約七升程を平げ泥醉し居たる處に酒家の裏に居住する具成女の三女具仙尹(七つ)が來合せたるに兼て心安き間柄とて酒席に上げ菓子など與へて遊ばしめ置き一同が退散したる後にて無分別にも此少女を出齒らたる事發覺し檢事局に押送せられたりとは困つた爺なるかな

局內で亂暴

高知縣土佐郡三日月村士族當時京城曙町三十番戸山崎源藏方鳥崎良護(三十)は京城郵便局の集配人なるが一昨日午後九時半頃へベレケとなり同局に至り慰勞金の請求を爲し[illegible]配人取締の某がそは他の同職に預けやりしと云ふや良護は烈火の如く憤り賴みもせぬ者に何故預けしぞと取締人に喰つて掛り亂暴の行爲に出でんとするにぞ止むなく此旨南部署に訴へ出でしかば巡査出張同署に引致し覺醒の後嚴諭して放免す

滿洲に至りたる妻が龍山にありて昨今分娩する頃なれば心配で堪まらず去る十二日便船にて仁川に來りたるものなりと自白及びたるが目下尚取調中

強盜五名押入

龍山坊萬里倉契九統九戸雜貨商金德俊(四十)方へ一昨日午前三時頃五名の強盜押入り內一人は刀を拔きて家人を脅迫し物品十七點此代價十二圓十九錢を強奪し逃走したるを以て其筋にては目下嚴重搜索中なるが賊は何れも韓服を着け言葉遣は田舍者らしき

水夫の泥醉

仁川港碇泊中の光濟號乘組員金同週(二十)は一昨夜九時頃內洞の道路に於いて泥醉の余り仰臥し居たれば巡行の警官は呼び起し其の不心得を諭さんとしたる所無法にも警官に對し亂暴を加へんとしたれば引致の上覺醒を待つて說諭を加へて放免す

●又々不良ラムネ　仁川に於ける飮料水の不良なることは屢々報導したる所なるが敷島裏ラムネ製造所の製造に係る粗惡なるものありしかば仁川警察署にては一昨日之れを投棄せしめ主人を召喚し嚴重なる注意を與へたる由

●大工道具の盜難　旭町二丁目長田新太郎は一昨午後九時半頃より翌午前七時迄の間に於て本町一丁目藤井貸家新築工場內に置きありし大工道具二十三點(代十三圓二十三錢)を竊取さる

●韓人部落清潔法　仁川警察署は過日來居留地內の大清潔法を施行中なりしが一昨日を以て全部終了を告げたるを以て本日より人夫三十八名を使役し韓人部落の清潔法を勵行する筈

●仁川韓妓の檢梅　仁川韓妓の檢梅は一昨日午後勵行せられたるが有毒者一名もなかりしと

●公判だより　仝二十一日法務院に於ける公判左の如し

民事(午前十時)一、印刷器及附屬物件引渡金並に損害金請求上訴人八島生修亮被上訴人栖瀬軍之佐　一、物品代金請求上訴人稻本淺三郎被上訴人四十万滋太郎

刑事(午前十時)一、殺人向井〆太郎　二、窃盜砂山林助

演藝界

▲壽座●●　本日は「濱千鳥」にして役割如左

小杉寛(松村)町田良太郎(吉井)平田重內(大山)町田觀、遊八金太(篠田)森島良平(阿部)魚屋嘩、小杉母、喜久村(高山)丸山(中村)秋子(堀江)久代中尉(田宮)

▲永樂亭●●　本日の讀物左の如し

八百屋お七(美根鶴)お半長右衛門(美根鈴)生首お仙(萬遊)いかるが平治(小三光)白井權八(美根由)佐倉義民傳(美根松)赤穗義士本傳、同銘々傳の內(圓朝)

韓語獨習

日語	韓語
葱は、ありませんか	パーカー、オブスミニカ
何處に、往くならば葱がありませう	オーラー、カーミョン、パー、カー、イッキエッソ
市に往けば、蕪菁も大根も賣つて居ます	チャンエ、カーミョン、スンムーワムーカパルゴイッスミニタ
香氣の、あるのは胡椒が、第一です	ヒャンナイカ、イッキヌン、ホッチョーカーチエーイーリョ

…(平洞人)●●●▲藝妓の檢梅は至急實行せられんことを希望する(一酌生)●●●●(娼妓の情夫)▲龍山柳町一丁目に持衞同好會と云へるあり其組織たるや普通の遊技的射利を目的とするものにあらざるが故に其高潔なる事吾等軍人の崇敬として最も適切なるものと信じ喜んで入會せり乞ふ同好の士に勸む(一兵卒)▲本町通りの○○病院の○○さんと大和町の○○○醫院の妻君は何だか變ですよ浪風立たぬ內少し用心なさい(注告生)▲何だか變だは何だか變だ何がどうして何が何う變なのだ何考へても何だか變だ(小僧)▲千里眼君から余程酷い小言を申し込まれた其內容を打ち明けると聊か拙者の面目に關係するから云はぬが一々御尤もです注意致させもし致しもする謹んで御忠言を謝します(係)▲朝鮮日々の花葉先生の令息が歿なられた相だが眞にお氣の毒に堪ねません(かしく)▲永樂亭の浪花節の座長は吉川圓朝歌舞伎座のは吉川圓長字で見れば違ふが言葉では差別が一寸付きあい夫れは夫れとした處で何方が兄イ株なんだらう(樋平古太)▲京城に失職者の多いことは非常なものだ內地の不景氣にも原因するだらうが少しは統監府にも罪がある然るべく救濟の方法を講ずる必要があらふ國に窮民ある爲政者に罪なからずとせんや(一措大)▲軍司令官邸で先夜遲くまで樂隊が奏樂して居つたが前の兵營內の兵士諸君は夫れ陰で夜中まで眠もせず泣い保養をしたと喜んで居た(同情男)▲泥峴街……明治町橫通りの繁榮策として支那領事館に賴んで奧行十間方圍いを引つ込まして貰つて商家を建てから蛇度アンナに寂れはしまい瀧川さんや藤田さん達の一考を煩はす清國領事も大した苦情は仰言るまいと思ひます三浦さんや熊谷さんも考へて御覽なさい(三巴)▲全快患者君の仰せの通り西小門內の當醫院は院主を始め醫員藥劑師看護婦に至る迄親切叮嚀にして藥價も低廉醫術も進步したる療法を研究應用し其効驗頗る顯著なり僕は世の病者に同院を紹介するを慈善の行爲なりと信ずる者なり(武田の友人)●●●▲吾等が總へ古來に口に八釜敷申して居りました當京城の淫賣屈も先夜南部署の大英斷に依りて彼等に一大打擊を與へたるは近頃以て痛快の一事であります將來も時々之れが檢擧を怠らざれば遠からず彼等をして覺醒せし

天氣豫報(自二十日午後六時至廿一日午後六時)

南西の風晴

十九日　最高溫度　七〇、七　最低溫度　五三、九(華氏)

廣告

[illegible]三税賦課反對委員は[illegible]副統監を秋風嶺[illegible]出迎へ車中懇願[illegible]に關し其報告會を同日午後[illegible]館に於て開きたるが出席者は西本民城、岩瀬靜、渡邊比、林甚七、[illegible]井幸太郎、小宮彥次、稻木天臣、河井朝雄の諸氏其他各部の代表者十數名にして委員報告を終りて運動費支出方法及請願書起草委員の選舉等決議したりと

既報の如く本年度に於て架設すべき警備電[illegible]萬圓を支出すべきことに內定したる由なり[illegible]

各種
洗濯石鹸
專門製造販賣
用途 陸軍、鐵道、船舶、鑛山、水道、諸工業用
京城旭町二丁目（電話九七三番）
朝日石鹸製造所

▲無料紹介欄▼

人事部

●被雇度　年二十五歳身体强健多年農業に經驗あり農事經營者へ雇はれたし市内に確實保證人あり　姓名在社（二一五九）

●被雇度　年二十六歳身体壯健にして勞役に堪ゆ精米所又は雜貨屋に雇はれたし市内に確實保證人あり　姓名在社（二一六一）

●被雇度　多年寫眞術に從事尤も技術を善くす給料多きを不望至急被雇たし　氏名在社（二一六二）

物件部

●賣却　古寫眞器附屬品共安價にて賣渡したし　氏名在社（二一五三）

ヴアイオリン講習樂器を備へ懇切に教授す　毎週月水金午前十時より　永樂町三番樂講習會（二一五六）

中古英國製コースター付自轉車至急讓受けたし　姓名在社（二一五七）

醬油釀造場　釀造道具一切付格安にて貸たし　社内福崎

廣告

月經を通じ子宮病を全治す

婦人方の病は總て月經不順より起るもの多く子宮病、血の道、顔色惡く、逆上强く食物進まず、通じ惡き等の病を根治す

月經閉止　三四ケ月の滯りを通じ又は月經前後に腹腰の痛む人等に服せば、血のめぐりを能くし、惡血を除き、無病健康の身となるべし

月經不順

嶽良新藥　二十世紀之新藥

月丸

定價　一日分金八錢　二週分壹圓　半週分廿五錢　三週分　一週分五十錢　一圓四十錢　全國到る處の藥舖にて取次販賣す

常に月經變動ある人は持藥として服藥せば子宮病に罹る憂ひ更になし

子宮病は月經不順より起るものなり

本舖 大阪市心齋橋八幡筋　丹平商會本店
分店 大阪市平野町堺筋北　丹平商會分店
支店 東京日本橋區箔屋町　丹平商會支店

金水舍製ラムネ

衛生無害　ラムネ、ミカン水

年々の通り純良なるラムネ、ミカン水製造販賣仕候間倍舊御愛顧を乞ふ

京城大和町二丁目　漢城製藥所長藥劑師　渡邊悦之輔

移轉廣告

今般業務擴張の爲め左記の處へ移轉す

南大門外御成町紅葉舘跡（茂呂運送店前）

五月

戶田病院

電話九三八番

キリンビール

夏物大賣出し

誰にも見切品よせ切澤山　聊か御添物差上可申候

五月十八日より　同廿四日まで　一週間

君が代足袋發賣元

京城本町四丁目

山口吳服店

（電話九番）

營業科目
活版活字鑄造　石版銅版　木版彫刻　コロタイプ版　寫眞版　諸帳簿　製本裝訂

今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ……

日韓印刷株式會社

本社 京城明治町三丁目　電話（三三三番）
東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十　電話新橋（三九六二番）

京城ニ事務所ヲ新設シ法律諸般ノ高囑ニ應ス

日本法律學士　辯護士　石黑行平

京城事務所　京城南山町二丁目五十五番地 天眞樓横上　電話二六五番

事務主任　前裁判所書記　藤井市郎

仁川出張所　仁川港山手町二丁目八番地 各國警察署前　電話二六五番

共同執務　公認代理業者　石塚嘉弌

開業

東京高等改良　貸席

[illegible]家

大和町一丁目（京城日報前）

京城第一の娛樂場

廿錢均一にして毎夜無休

午後六時迄に御越の御方に限り十五錢雨天は半額

終日の勞を慰せんと欲するには須らく弊座に來り求められよ必ずや興多からん

電話千百三十七番

京城座

●夏物新荷着●

嶄新流行御爲向必適品　色合ひ新鮮御希望の品

御買求めは一日も早き方御得策なり舊に倍して御愛顧御引立願上候

●夏物新荷着●

太物洋反　蚊帳蒲團

（あ）

御なじみの郵便局前

秋山商店

電話九百五番

鴨綠江特種木材九州セメント取次販賣

末口一尺八寸以上長さ五間迄其他各種材

京城旭町三丁目

建築業　柴田芝六

電話五六八番

特定御用
牛乳
荒井牧場
電話一〇五六番

明治町二丁目七十五番戶

辯護士　岩田仙宗

電話三五四番

▲清潔の下宿▼

客室の清潔と調理の美味と御扱の懇切とを特色として下宿營業仕候間賑々敷御投宿の程御願申上候

壽町二丁目十番戶横小路（元花屋跡）

▲懇切の下宿▼

かめ屋

東洋總代理店

實用石鹸　アイボリー

藤原京城支店

電話[illegible]

西洋料理

京城壽町二丁目

にしき支店

電話七百二十九番

出前仕候

東京流　貸席　待合

電話一〇二五番

南山町二丁目　植村病院跡

松岡醫院

入院隨意

電話六七五番

開業御披露

京城南山町三丁目（[illegible]翠樓跡）

御料理　稲の家

電話千百十六番

桶類

製造大安賣

明治町一丁目横町通

矢野商店

特約販賣　自製

漬物　味噌　醬油　製造元

京城本町五丁目

大上商店

和洋酒、精酢、穀物麵類銘茶、罐詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛各種特約販賣

尚御望に依り商品切手調進仕候

（電話二五一番）

元祖　消毒殺菌

牛乳　千山牧場

京城大和町壹丁目

電話一三三

貨物運送取扱　危險擔保附運送　税關貨物取扱　品代金付貨物運送　貨物引換證發行

內國通運株式會社

京城支店　京城南大門驛前　電話七〇八番

仁川出張所　仁川驛前　電話五二一番

釜山出張所　草梁驛前　釜山驛前電話六一六番　草梁驛前電話三三七番

龍山派出所　龍山驛構內　電話二〇六番

開業御披露

貸席待合

入船

南山町一丁目坂上

南山の風景を眼前に眺め浴場の設備あり

諸傘並に提灯類　印入

和洋蠟燭あり

京城明治町一丁目

大島商店

◉氣候變化　牛乳

◉牛乳　純良　消毒

韓國畜産株式會社

南大門外（電話八八番）

★株式會社　百三十銀行　京城支店　韓國總支店

京城本町二丁目十五番戶　電話五十八番

資本金五百萬圓

頭取　安田善三郎

爲替取組先

畿內　大阪、京都、西陣、伏見、奈良、郡山、八木、高田、御所、堺、貝塚、岸和田、御影、兵庫、神戸、平野、住吉、茨木、下市

東海道　東京、横濱、大磯、甲府、靜岡、名古屋、半田、熱田、四日市、津、山田、桑名、松阪、

東山道　彥根、八幡、大津、長濱、大垣、岐阜、前橋、伊勢崎、宇都宮、福島、若松、青森、秋田、能代、七日市、高崎、

北陸道　小濱、福井、敦賀、鯖江、金澤、大聖寺、

山陰道　宮津、舞鶴、新舞鶴、豐岡、鳥取、米子、境、松江、久手、大田、

山陽道　龍野、姬路、西大寺、笠岡、高梁、玉島、福山、府中、尾の道、三原、廣島、岩國、山口、柳井、下關、德山、小郡、長府、網干、牛窓、味野、岡山、

南海道　串本、御坊、田邊、新宮、和歌山、尾鷲、洲本、撫養、德島、丸龜、高松、八幡濱、三津ヶ濱、松山、今治、西條、

西海道　直方、飯塚、博多、福岡、若松、久留米、若津、中津、小倉、三司、行橋、後藤寺、佐伯、別府、大分、伊萬里、牛津、長崎、佐賀、熊本、宮崎、鹿兒島、八幡、長洲、

北海道　函館、小樽、札幌、

台灣　臺北、臺南、

清韓國　仁川、釜山、元山、鎭南浦、平壤、木浦、羅州、大邱、群山、安東縣、晋州、全州、馬山、

銀行一般の業務精々便利取扱申可候

日本郵船株式會社

仁川出帆廣告

貨物及船客取扱店

仁川海岸通　郡回漕店

電話三九番　電話十番

●釜山長崎門司神戸行　山東丸　六月六日午後三時出帆

●大連、太沽、牛莊行　高砂丸　五月二十七日正午出帆

●大連、太沽、牛莊行　山東丸　五月二十五日午前五時出帆

●大連、太沽、牛莊行　酒田丸　六月十七日正午出帆

●釜山出帆、元山、浦潮、函館行　立神丸　五月二十六日午後

御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送迎可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞代　一ヶ月前金[illegible]　▲三ヶ月[illegible]
●廣告料　▲五號活字十九字詰一行一回四十錢　▲[illegible]
發行兼編輯人　秋山忠三郎
印刷人　高木久馬太
發行所　京城新報社　京城西署西小門通　電話六六三番